

素敵な助産師さん、見~つけた!

今回は...保健指導部会「高野まゆみ」さんです!



♡紹介者の宮武さんより一言♡
 やんわりとした口調で話しやすい雰囲気の高野さん。お母さん方も安心して相談やケアが受けられていると思います。勉強家なので私も見習いたいと思います。

こんにちは!
 宮武さんからバトンを受け取りました高野まゆみです。助産師として、県立病院で勤めた後、保健所勤務を経て地域で保健師として働くなど、長期間、助産師業務から離れていました。孫育てをしながら若いお母さん達と触れ合う中で、再び助産師としてお母さんたちの力になれるらと思ひ、母子訪問をさせて頂いています。病院勤務の時には、おっぱいの状態も育児技術も不十分なまま退院していくお母さん達を十分支えられないもどかしさを感じ、地域でと思いつつも、やはり、十分支えることはできず、もどかしさを感じていました。しかし、助産師会で熱心に活動されている仲間たちに出会い、広い地域の輪の中でなら、お母さんたちを支えていくのではないかと考えています。私自身はその一点にすぎませんが、一期一会、出会ったお母さんたちの一助となれるように学びを深めつつ、お母さん達に寄り添いながら、他の助産師や保健師などにつなげ、ともに支えていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



今年度の行事予定

日時	研修会・行事	場所
12月7日(土)	香川母性衛生学会	香川県立保健医療大学
1月26日(日) 9:30~12:30	新生児蘇生法(NCPR)スキルアップコース 香川県立保健医療大学准教授 竹内美由紀 他	香川大学 スキルスラボラトリー
2月2日(日) 12:00~	第12回香川県小児保健協会研究会 「小児の発達障害」	香川県立文書館2階 視聴覚ホール
2月9日(日) 9:30~12:30	妊娠期から授乳期における栄養摂取と食事 三木町健康福祉課 管理栄養士 久米川知希	いのちの応援舎

お知らせ

- 鈴木富子さんが「日本家族計画協会会長表彰」おめでとうございます。
令和元年度健やか親子21全国大会(11月7日千葉市民会館)において鈴木富子さんが表彰されました。
- 香川県助産師会のHPがリニューアルしました。
アドレスは <https://sanuki38.com>
しばらくは以前のHPが開くかもしれませんがお手数ですが入力してください。
- 日本女性心身医学会研修会:「ウィメンズメンタルヘルスをライフステージから考える・支える」
日時:2020年2月2日(日)13時~16時半 場所:サンポート高松 会費:3000円(申し込み不要)
CLOCMiP®更新要件であるウィメンズヘルスクエア研修180分の終了証を発行
- 香川大学市民公開講座:「地域で育む小児生活主幹病予防検診」
日時:2019年12月7日(土)14時~16時30分
場所:かがわ国際会議場 申込等:事前予約不要、無料
- 香川県診療放射線技師会市民公開講座:「乳がん検診のすゝめ」
日時:2019年12月22日(日)14時~16時
場所:三木町文化交流プラザ 小ホール 申込等:事前予約不要、無料



とらうべ通信 2019.12月号 No.92

発行所:(社)香川県助産師会 高松市春日町1176
 発行責任者:宮本 政子 ☎:087-844-4131 FAX:087-844-4130

会長挨拶

会長 宮本 政子

前回の「とらうべ通信」は厳しい暑さの夏にお届けしましたが、時の経つのは早いもので、もう師走です。台風の影響にあわれた方には厳しい冬の到来で、1日も早い復旧を願うばかりです。会員の皆様には日々香川の母子保健にご尽力いただき心より感謝申し上げます。さて、助産師会の動向として10月に鳥取県で中四国研修会がありました。来年本県が担当するので、視察も兼ねて出席してまいりました。講演内容もとてもよかったです。会場の案内や懇親会などすごく丁寧なおもてなしを受けました。本県でも同じレベルで開催できるかプレッシャーを感じているところですが、研修会の成功に向けて準備を進めて参りたいと思います。来年10月17~18日に開催しますので、多くの会員の方の出席をお待ちしています。

11月には今年も「いいお産の日」の事業を東西2か所の会場で行いました。東会場は今までの会場が使えなくなったので、「いのちの応援舎」で開催しました。場所も今までに比べると狭いし、駐車場の問題などどうなるかと思いましたが大きな問題もなく、助産師による「いのちのお話」では狭い部屋にギュウギュウ詰めになるほど、多くの母子やご家族が参加され大変盛況でした。また、西会場も多くの参加があり、助産師による紙芝居は参加した小さな子ども達も熱心に聞き入り、大変感動する内容でした。両会場とも昨年より少し時間を短縮しましたが、参加者の評価も良かったです。準備は大変だったと思いますが、助産師の役割を理解していただく良い機会となりました。ご協力いただいた方に心より感謝いたします。



日本助産師会の動向では、来年から始まるCLOCMiP®更新に向けて、助産所で働く助産師の更新認定のために各県の助産師会長や助産所の責任者の研修があり参加しました。すごく細かい取り決めが多く、少し大変ですが、公正な認定ができるよう努力したいと思いますので、更新される方はご準備ください。病院等で働く方はこれまでどおり日本助産評価機構の認定に向けご準備下さい。更新に関しては賛否両論ありますが、助産師が専門職として社会に認められる一つの機会ですので、多くの方が更新されることを願っております。



贅沢なJ-CIMELSベーシックコース研修会に参加

ぽっこ助産院 眞鍋由紀子

11月23日香川大学にてJ-CIMELSベーシックコース研修会が行われました。県内7施設23名の参加があり、研修生1.5人に対し1人の指導者がつき、有意義なそして、贅沢な時間を過ごすことができました。ロールプレイで医師役をし、頭で考えていることが言葉に出ず、これでは命を救うことができないと冷や汗が出ました。現実にはこのような場面に遭遇したくありませんね。若者に混ぜてもらっての研修会、久しぶりに汗をかきました。



今年も皆様のご協力のもと開催しました!! 第23回「いいお産の日」イベント

「いいお産の日」西会場

西会場実行委員長 吉田真理子



清々しい秋晴れの11月10日(日)、丸亀市岡田コミュニティセンターでいいお産の日が開催されました。参加者は71家族175名、(大人116名、子供59名)でした。今年度は開始時間を30分早めて午前中で終わるプログラムに変更しましたが、昨年を上回る参加者となりました。



9時半からのメインイベント、助産師による紙芝居「うまれてきてくれてありがとう」ではこれから赤ちゃんを迎えるご夫婦、赤ちゃんがうまれたご家族

などそれぞれの立場でお産を考える時間となりました。

今年は各ブースでの体験をより充実させたいと、話し合いを重ね、工夫を凝らしました。防災コーナーでは防災アンケートシールに参加者に張ってもらい防災についての意識づけを行いました。また簡易スリッパを新聞紙で作る体験や停電時の照明の工夫など具体的に実施できそうな体験を取り入れ、多くのご家族に好評でした。沐浴体験では「あわあわ沐浴」をかわいい写真や映像で具体的に紹介し、多くの父親の積極的な参加があり、父親の育児への関心の高さを感しました。助産師のほっと相談は授乳室を兼ねて行いましたが、父親の付き添いも多く、来年度からは父親も入れる場所の工夫が必要だと感じました。歯科医・管理栄養士・キャリアコンサルタントへの相談コーナー、マタニティーヨーガ、ベビーマッサージ、骨盤クラス、妊婦体験、安産のお灸・小児はり、折り紙広場など1つの家族が多くの体験を楽しんでおられました。参加者の方の笑顔や赤ちゃんたちのリラックスした表情、兄弟も楽しんでいる様子に、こちらもたくさんのお元気をいただきました。実行委員の方々をはじめ、当日には70名のスタッフのご協力で「いいお産の日」を開催できたことを心より感謝いたします。



今年からはインスタに当日の様子をアップするなど新しい取り組みが始まり、来年度さらに進化した「いいお産の日」を開催できることを楽しみにしています。



「いいお産の日」高松会場

高松会場実行委員長 浅田 明美

秋晴れの清々しい天候に恵まれ、11月4日(日)のちのちの応援舎に於いて第23回「いいお産の日」が開催されました。今年度は開催会場の関係で開始時間を午後からとして、体験コーナー、展示ブース等を含め例年より縮小した内容で、準備を進めて来ました。

12時30分からメインイベント「産婆由紀子のいのちのお話」が始まると来場者が会場いっぱいになり、椅子を増やしたり会場内に誘導したりという光景でした。来場されたご家族からお産の体験談をお話し頂き、これからお産に臨むご家族に対して活きた情報が共有でき、会場内に一体感が生まれました。毎年開催していた高松テルサでの感覚とは違い、いのちの応援舎でのアットホームな感覚で、「あなたのそばに助産師がいます」というサブテーマにぴったりの雰囲気

に包まれたと感じました。人と人との繋がり、温もりを感じさせて頂けた一日でした。来場者の方やスタッフの笑顔に接し「いいお産の日」を貴重な交流の場としてこれからも大切にしていきたいと思いました。

当日は1F、2Fともに大変な混雑の中、スタッフ及び関係者の方々には臨機応変に対応して下さい、ご協力して頂きまして本当にありがとうございました。



母乳育児支援と授乳期の乳がん他 研修会を通して

報告) 西成 和香奈

それぞれの助産師の方が、これまでに乳腺炎の症状を訴えられた母子にマッサージなどで関わった経験をお持ちかと思ひます。その時に、本当に乳腺炎のしこりかどうか悩んだ経験はありませんか。10月20日(日)に行われた研修会では、そんな悩みの解決の助けとなるようなお話を聞くことができました。講師は、助産院ゆり院長でIBCLCの鈴木佳奈子さん、香川大学医学部看護学科准教授石上悦子さん、たけべ乳腺外科クリニック助産師の網野裕美子さんです。

鈴木助産師さんは、乳房を語るならまずは解剖生理学! ということで母乳育児支援につなげるための乳房や乳汁分泌のメカニズムについて講演して下さいました。その中で、乳房緊満時にまずはクーリングをしていませんか?の言葉にドキリ!!!クーリングに関するエビデンスはないため、ただ冷やせば良いというものではなく、急激に冷やせば張り返しもくるので母が希望すればソフトな冷やし、または肩など遠くの血管を温めて血行を促進させるなど、根拠に基づいた対応の重要性を教えて頂きました。他にも母乳育児支援をめぐる最近の動向など盛り沢山にお話しをして下さいました。

石上先生は、これまで研究されたデータに関することや乳がん患者の近年の動向などを教えて下さいました。先生の研究では、助産師は、「乳がんに対する関心は高いが知識が低い」、「乳がんを疑った時にとる行動として授乳期は様子観察することがある」という結果が出ていました。そして、ここ5年くらいで言われ始めた妊娠関連乳がん(PABC)について、「妊娠期PABCの死亡リスクより授乳期PABCの死亡リスクほうが優位に高い」という新たな知識を頂くことができました。

網野助産師さんは、乳腺外科クリニックに勤められているからこそ分かる事例を乳房の画像を用いて分かりやすく解説して下さいました。画像は、正常、乳がん、授乳期、切開した乳房などです。乳腺の密度の違いや乳管の大きさの違い、炎症のある乳房の画像など見比べながら知ることができ、なるほどと納得しました。その他、乳がんが分かった後の看護ケアについて、ほとんどの人が子供に乳がんのことを伝えるのを嫌がる傾向にあることを教えて頂き家族看護を考えさせられるものでした。事例として教えて下さった方の中には、産後15ヶ月とまだ若い方がいました。



池添先生のお庭のお花。会場がいつも華やかになります。



この度の研修では、それぞれの先生方の豊富な知識と経験を惜しみなく披露して頂き、本当に豪華で充実した内容でした。今後、乳房トラブルの方に関わる時には、授乳期だからと経過観察に留まらず、早期発見の意識で次の医療機関につなげていくことが大切だと思います。